

佐古小学校でのワークショップ
みんな笑顔でダンスを楽しんでいました！



香南市の
「がんばる！」
を応援

ダンス = 自分

たどころ りんたろう
田所 麟太郎さん (23歳)

野市町出身。15歳からダンスを始め、高校生の時に所属していたダンス部での活動で全国大会優勝。2018年にはヒップホップ部門で世界大会に出場し、全米3位という快挙を成し遂げました。現在は東京に拠点を移し、プロダンサーTAKORON (タコロン) としてプロリーグに参戦しているチームの一員として活躍。



プロダンサー×自分

日本が世界的にもダンス先進国と言われているのを「存じでしょうか？ダンス人口は600万人以上で、これはサッカーや野球と同水準の人数です。2020年には、10月から翌年5月を1シーズンとして日本一を競うD・LEAGUE (Dリーグ) が始まりました。

Dリーグの参加チーム「SEPTENI RAPTURES (セプテニラブチャーズ)」には市内出身のプロダンサー田所麟太郎さんが所属しています。田所さんは約60人が応募したオーディションを突破し、チームに参加。今シーズンは現時点で5回のパフォーマンスに出演し、活躍しています。



そんな田所さんがダンスを始めたきっかけは、音楽グループのミュージックビデオで披露されていたダンス。こんなカッコいいダンスがしてみたい！という情熱のままにダンスを始め、わずか数年で世界大会にも出場するまでの実力を身につけます。

田所さんにダンスの魅力を聞くと、「いつでもやっていられる」と話してくれまし

た。きつと何歳になっても、どれくらいの時間をかけても追い求められるのがダンスとも付け足してくれました。きつとそんな思いがあるからこそ、ダンスに向かって突き進む田所さんの今があるのだと、感じられる言葉でした。

田所さんにとってダンスとは

しばらく悩んだ後、「ダンスは自分…かな。自分と言ったらダンスだし、ダンスに出会って人生が変わった」と答えた田所さん。踊る人によってさまざまな色が見られるダンスですが、得意のフリースタイルを踊る田所さんの表情のほとんどが笑顔。チームの仲間からも「音で遊んでいるかのようなダンスが彼の魅力。楽しむ、という根この部分が出ていて、人の心をつかむようなダンスです」と評されていました。

「音楽がかかると身体が動いちゃうんです。その中でも自分をだせた、表現できた、と思えるパフォーマンスができるとうごく気持ちいいです！」ダンスの技術を磨くだけではなく楽しんでいるのが伝わる田所さん。ダンスを始めた時は、まだ周りでダンスをしている同世代は少なかったそう。今ではダンス人口が増え、ダンスを楽しんでくれる人が増えていることがすごく嬉しいと笑顔で話してくれました。

インタビュー動画が見られます

今回のインタビューの様子を香南市公式YouTubeで公開しています。ぜひご覧ください！



スマホやパソコンで 田所さんを応援！

セプテニラブチャーズ
公式YouTubeチャンネル



Dリーグ公式
YouTubeチャンネル



次回の試合は4/7(日)！

地元高知×自分